血液型性格判断はなぜ信じられるのか

福永　泰大

血液型性格判断はすっかり日々の生活に定着した。電車の中では高校生たちが、飲み屋ではサラリーマンたちが、家庭では奥さまたちがという具合に、やれ「A 型は気配りができるけど頭がかたい。」だの、やれ「B 型はアイディアマンだけど自分勝手。」だのと話し合い、自らのことを「だってオレ AB 型だからさぁ～」と血液型を最後に切り札のように出してくる人さえもいる。血液型性格判断を活用し自分の性格の説明、相手の性格の判断、理解している人たちは、少なからず血液型と性格に関係性を感じているのである。そもそも血液型性格判断に科学的根拠はない。今日まで血液型と性格における関係性については全く実証されておらず、このことは広く世間にも明かされている。二つの関係性が実証されていない以上、関係性があるとは結論づけることはできないのである。では、なぜ科学的根拠がない血液型性格判断は今日のように日本社会に定着したのだろうか。筆者はその最大の要因は、多くの人々が血液型性格判断を信じるに値するものであると納得しているからであり、言い換えれば、血液型性格判断に人々を納得させてしまう何か心理的効果があるからであると考えている。本論文では、科学的根拠がない血液型性格判断がなぜ信じられるのかを明らかにし、この現象を説明するものである。

第一章では注目する現象・問題意識について触れる。第二章では、世間の人たちが血液型性格判断をどの程度信頼しているか、また、どのように捉えているかをアンケートから明らかにする。第三章では、血液型性格判断とはいったどういったものなのかを説明する。第四章では、血液型性格判断に対する批判的検証のタイプはいったどういったものがあるのか、筆者が目を通した書籍、論文を二つのタイプに分けて見ていくこととする。第五章では、第四章より明らかとなった本論文の注目する FBI 効果の概念について説明していく。第六章では、第五章で説明した筆者の解釈による FBI 効果の概念を元に、大村政男が行った FBI 効果の実証実験を見ていく。第七章では、第六章で指摘した大村政男の実証実験の反省点を元に筆者が新たに作り上げた質問紙で、FBI 効果の追跡調査を行いその結果を見ていく。第八章では、二章から七章までをまとめると共に、本論文の結論を述べる。